

# 窓辺

あんどろ  
安藤 隆敏

## 「ドングリの背比べ」を 科学の目で

ドングリとは、ブナ科の

木の実の総称で、日本には24種あります。学者によっては変種や交雑種を区別する場合もあります。全部集めたいと思ってから、完結するまで十数年かかってしまいました。それぞれ美しさが感じられます。よく似ていて区別がつきにくいので「ドングリの背比べ」と言われますが、一括りにしてしまおうと科学は始まりません。

以前の勤務校で、小学1年生が公園でたくさんのだ

ングリを拾ってきました。

その中から8種類ほどに名前ラベルを付けてみました。すると、子どもたちは拾ってきた約千個のドングリの仲間分けを始めたのです。この日を境に、子どもたちは「ドングリ」とは言わず、「アラカシ、シラカシ、コナラ…」とそれぞれの名前で呼ぶようになりました。

比較して違いが分かり、分類することは科学の第一歩です。ただ、野山には自然交雑種のように両方の特

徴を示す場合もあります。私見では、ブナ科は交雑によって、たくましく生き残るために大きな実を作ろうとしているように思います。

また、ドングリはクラフトの材料としても使われますが、あくまでも種子です。乾燥せずに生きているものに対しては「命の始まり」を意識してほしいと考え、これまで「木の実を育ててみよう」の活動を勧めてきました。この芽生えに子どもたちは感動し、育ち方へと関心を深めることで、生態という次のステップの科学に進みます。

(浜松科学館館長)